埼玉県土木工事委託業務成績評定要領

(目的)

第1条 この要領は、埼玉県の所掌する土木工事委託業務の成績評定(以下「評定」という。)に必要な事項を定め、厳正かつ的確な評定の実施を図り、もって建設コンサルタント等並びに技術者の適正な選定及び指導育成に資することを目的とする。

(評定の対象)

第2条 この要領において評定の対象となる委託業務は、次のものとする。

「測量作業」(用地測量を含む)、「地質・土質調査」、「設計業務(概略設計、予備設計、詳細設計)」、「調査業務、計画業務」、「単純調査業務」

委託金額(業務委託料) 300万円以上の業務

以下の業務は対象外とする。

- 1. 測量作業のうち維持管理に係る台帳作成(補正)業務及び 境界測量業務
- 2. 物件調査業務及び環境事前(事後)調査業務
- 3. 土木工事以外の設計業務

(評定者)

- **第3条** 委託業務の評定者(以下「評定者」という。)は、下記の各号に定める者とする。
 - (1) 埼玉県標準委託契約約款第5条で定める監督員及び第11条で定める 検査を行う検査員。
 - (2) 埼玉県土木設計業務等標準委託契約約款第9条で定める監督員及び第31条で定める検査を行う検査員。
 - (3) 埼玉県建築設計業務標準委託契約約款第14条で定める監督員及び第31条で定める検査を行う検査員。

(評定の方法)

- **第4条** 評定は、業務完了のとき、監督又は検査により確認した事項に基づき、 評定者ごとに厳正かつ的確に行うものとする。
- 2 評定の結果は、様式1号の委託業務成績報告書に記録するものとする。

(評定の報告)

- 第5条 監督員である評定者は委託業務完了のとき、検査員である評定者は完 了検査のとき、それぞれ評定を行い、同一の委託業務成績報告書により、検 査命令権者に報告するものとする。
- 2 監督員である評定者は、完成検査実施の都度、業者情報管理システムに総 評点を入力するものとする。

(評定結果の通知)

第6条 発注者は、完了検査終了後遅滞なく、当該委託業務の受注)者に対して、委託業務完了検査結果と併せて委託業務成績評定結果を様式2号により通知するものとする。

(説明請求等)

- 第7条 第6条による通知を受けた者は、通知を受けた日から起算して14日 (閉庁日を含む)以内に、様式3号により発注者に対して評定の内容につい て説明を求めることができる。
- 2 発注者は、前項による説明を求められたときは、受注者に対して様式4号 により回答する。
- 3 前項により受注へ回答するにあたり、発注課所長は受注者から説明を求められた内容を公正に判断するため、成績評定審査委員会を開催する。

(委員会の設置等)

- 第8条 委員会の委員長は、課所長の職にあるものとする。
- 2 委員会の委員は、主幹級以上の職にある職員の中から、委員長が指定する。 ただし、当該委託業務の検査員である職員は除くものとする。
- 3 委員会は、委員長が招集する。
- 4 委員長は、審査にあたり必要に応じて、受注者、担当監督員、総括監督員、 検査員の出席を求めることができる。

(評定の修正)

- 第9条 発注課所長は、第7条第3項により検討した結果、当該評定を修正する必要があると認められる場合は、委託業務成績報告書の修正を行うものとする。
- 2 発注課所長は、前項による修正を行ったときは、検査命令権者に修正した 委託業務成績報告書により報告する。
- 3 発注課所長は、第1項による修正を行ったときは、業者情報管理システム

に総評点を入力するものとする。

4 発注者は、第1項による修正を行ったときは、遅滞なくその結果を、様式 5号により受注者へ通知する。

なお、この場合、第7条第2項の規定は適用しない。

(評定結果の公表)

- 第10条 評定結果は、発注課所において、完了検査終了後遅滞なく、様式6号 により公表するものとする。
- 2 公表については、自由閲覧方式とし、閲覧者の氏名等の記載は要しないも のとする。
- 3 閲覧期間は、完成検査日の属する年度とその翌年度とする。
- 4 閲覧に供した資料の内容に関する問い合わせには応じないものとする。
- 5 様式6号の保存期間は5年とする。

附則

この要領は、平成21年4月1日から適用する。

附則

この要領は、平成23年4月1日から適用する。

附則

この要領は、平成24年4月1日以降に締結される契約から適用する。 なお、平成24年3月31日までに締結した契約については従前のとおりと する。

考查基準

1 評定項目及び細目

評定項目及び細目は次のとおりとする。

項目	細 目
専門技術力	提案力、技術力(改善力)
	業務執行技術力
	施工時への配慮(注)
	コスト把握能力(注)
管理技術力	工程管理能力
	品質管理能力
	迅速性、弾力性、調整能力
コミュニケーション力	説明力、協調性、プレゼンテーション力
取組姿勢	責任感、積極性、倫理観
成果品の品質	

注)「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

2 総括監督員考査基準

(1) 考查方法

総括監督員は、評定趣旨を十分に理解し尊重した上で、それぞれ総合的に評定を行う。

(2) 評定点範囲

採点表(総括監督員用)の該当評価項目について、それぞれ総合的に 判断して評定するものとする。(評価項目の追加、削除は行わない)

(3) 事故等による減点

当該業務遂行中に受注者に起因する事故等が発生し指名停止等の措置 を行った場合には、当該業務の総合評定点に対して、別表-1を参考と して15点まで減点することができる。

別表-1 受注者に起因する事故等が発生した場合の減点基準

区分	口頭注意	文書注意	指名停止 1ヶ月まで	指名停止 1ヶ月超
考 査 点	- 3点	- 5点	-10点	-15点

【適応事例】

① 入札前に提出した当該業務の技術提案書等が虚偽であった事実が 判明した。

- ② 発注者の承諾なしに当該業務に関する権利義務、成果物を第三者に譲渡又は承継、公開した。
- ③ 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無 許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。
- ④ 一括再委託、請負を行った。
- ⑤ 打ち合わせ協議または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。
- ⑥ 当該業務において過積載等の道路交通法違反により、逮捕または 送検等された。
- ① 当該業務において安全管理の処分が不適切であったために、死傷者を生じさせた業務関係者事故、または重大な損害を与えた公衆災害を起こした。

(4) 瑕疵修補及び損害賠償による減点

成果品に、受注者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約書のかし担保 条項等に記された手続きに従い、瑕疵修補又は損害賠償が実施された場 合には、当該業務の総合評定点に対して、別表-2を参考として20点 まで減点することができる。ただし、ここでいう瑕疵修補とは、軽微な ミスの修正ではない大幅な修補をいう。また、埼玉県委託業務成績評定 要領(以下、「評定要領」という。)第6条に定める評定の結果の通知後 に当該事象が発生した場合は、評定要領第9条を準用し評定の修正を行 うものとする。

別表-2 瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点基準

区 分	瑕疵修補又は損害賠償の実施	故意又は重大な過失により 瑕疵修補又は損害賠償の実施
考查点	-10点	- 20点

3 担当監督員及び検査員考査基準

評定にあたっては、当該業務の履行状況に応じ、各評価項目の評定を行う ものとする。(評価項目の追加、削除、もしくは評価比重の変更は行わない)

4 「単純調査業務」について

「調査業務、計画業務」は、広範かつ高度な専門的知識が要求される業務 や高度な技術と豊かな経験が要求される業務といった比較的難易度の高い調 査業務に対応するものであるため、これについては「調査業務、計画業務」 採点表を使用するものとする。

しかしながら、「設計共通仕様書」第1204条及び第1205条に規定する「調査業務、計画業務」には、高度な技術力をそれほど必要としない単純なデータ処理業務や資料収集・整理業務等も含まれることから、これらを「単純調査業務」と定義し、「測量作業、地質・土質調査、単純調査等業務」採点表を用いて評定するものとする。なお、「単純調査業務」の対象業務については、以下に示す例を参考とされたい。

【単純調査業務の例】

各部門共通 単純なデータ収集整理業務

単純なデータ処理業務

書類編集的な業務

文献収集業務

河川、砂防 水理・水文観測業務

データ加工業務 (降雨解析等)

不等流計算等の計算業務(システム開発を除く)

補償数量の算出

工事記録等資料の分類・整理

工事図面集、写真集等の作成

道路 一般的な現地踏査

一般的な交通量観測業務

台帳整理等を目的とした資料収集業務

トンネル
クラック等変状の計測調査

施工計画及び施工設備 施工関連資料の収集整理

情報 定期的なデータメンテナンス

資料収集的な業務

単純なデータ作成のみの業務

防災 資料収集的な業務

環境 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等調査・分析方

法がJIS等で規定されている測定業務

5 対象業務が複数の業務にまたがる場合の取扱い

対象業務が、「測量作業、地質・土質調査、単純調査業務」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」のうちの複数の業務にまたがる場合においては、業務の目的、金額を勘案し、原則として主たる業務の採点表を適用する。

ここで、「主たる業務」の取扱いについては、以下を参考とされたい。

- (1) 「測量作業、地質・土質調査、単純調査等業務」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」の対象部分のどれかが評定対象額を超えるときには、 その業務を「主たる業務」とみなすものとする。
- (2) (1)を除き、「測量作業、地質・土質調査、単純調査等業務」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」の対象部分の合計が評定対象額を超えるとき、業務の目的、金額を勘案して、「主たる業務」を1つ選定するものとする。

これらの取扱いは、担当監督員及び検査員で統一するものとする。

6 採点表の選定について

対象業務が複数にまたがる場合の取り扱いや単純調査業務の選定は、担当 監督員が決定する。

7 総合評定点について

総合評定点を算出する際には、対象業務に応じて各評価項目ごとに以下の 重み付けを考慮する。

					延調査等業 業務、計画		設計業務			
	評価項目			技	術者評定		茶丞	技術者評定		
			業務評定	管理 現責 (注1)	担当 (注2)	照査	業務評定	管理	担当 (注2)	照査
	提案力	、改善力	9. 5	9. 5	15. 4	_	8. 3	8.3	12. 5	_
	業務執	行技術力	19. 1	19. 1	30.8	_	16. 7	16. 7	25. 0	_
専 門 技術力	施工時へ の配慮 (注3)	概略設計、 予備設計	-	_	_	-	4. 2	4.2	6. 3	-
		詳細設計	_	_	_	_	4. 2	4.2	6.3	_
		把握能力 注3)	_	_	_	-	4. 2	4.2	6.3	_
	工程管	管理能力	9. 5	9. 5	-	_	8. 3	8.3	_	_
管 理技術力		管理能力	9.5	9.5	-	66. 7	8. 3	8.3	-	66. 7
	調生	弾力性、 隆能力	4.8	4.8	_	_	4. 2	4. 2	_	_
コミュニケーション力		協調性、 /テーション力	4.8	4.8	7. 6	_	4. 2	4. 2	6. 3	_
取組 姿勢		積極性、 理観	9. 5	9. 5	15. 4	_	8. 3	8.3	12. 5	_
	成果品の	品質	33. 3	33. 3	30.8	33. 3	33. 3	33. 3	31. 1	33. 3
	合 計		100	100	100	100	100	100	100	100

- 注) 1 現場責任者及び技術管理者(管理技術者)が該当する。
 - 2 担当技術者は3名までとし、TECRIS に登録されており、かつ発注者との

打ち合わせに回数で半分以上出席している者とする。

3 「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

参考:採点上の補足

採点表の評価細目で、"高度な技術レベル" "難易度の高い業務" の項目があるが、これに関しては「設計・コンサルタント業務等入札契約問題検討委員会中間とりまとめ」に示される「知識」の高い業務かつ/又は「構想力・応用力」の高い業務を指す。以下、標準的な業務内容に基づいた例を示す。

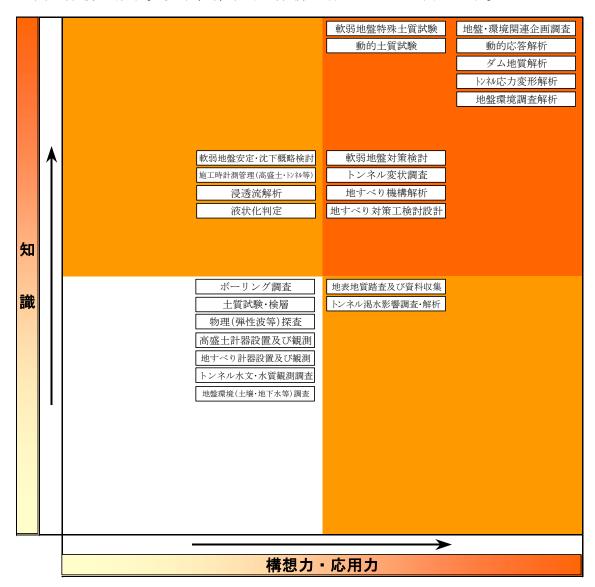


図 地質調査の例

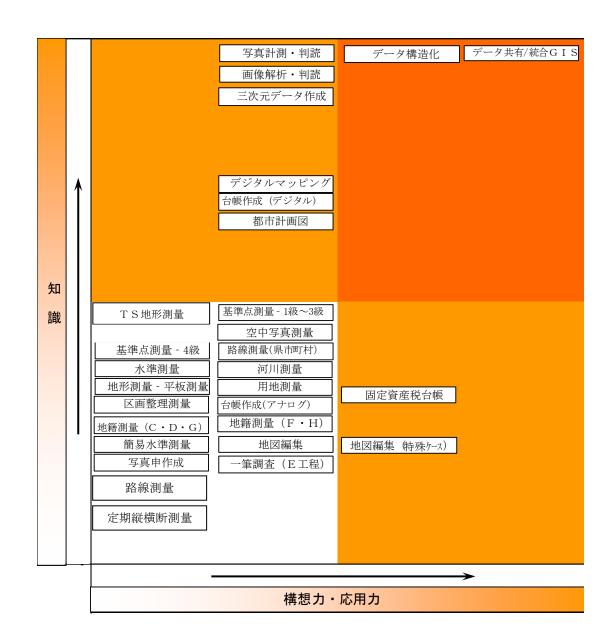


図 測量作業の例

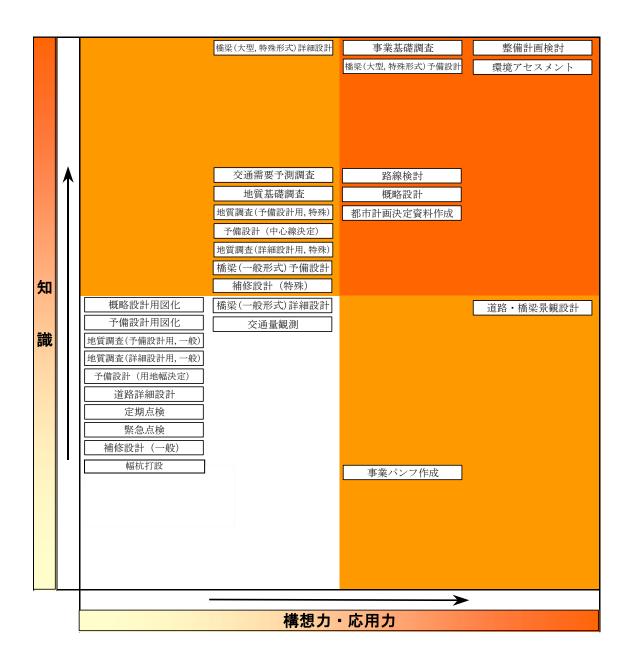


図 道路事業に係わる調査・計画・設計業務の例

	利水計算	堰設計A	高水流量検討A	河川整備基本方針
ľ		水門設計	正常流量検討A	河川整備計画
		排水機場設計A	治水経済調査A	水理・土砂解析A
		河道計画A	環境管理基本計画	事業評価
		防災システムB	氾濫解析	総合治水対策
		(A)(C++)/ ++D	利水計画	防災システムA
			河川情報システム	環境アセスメント
1	正常流量検討B	高水流量検討B	計画降雨検討	特殊構造物設計
	降雨解析A	低水流出解析		内水解析A
	内水解析B	河道特性検討		
	河道計画B	ハザードマップ		
	堰設計B	堤防・護岸設計A		
知		樋門・樋管設計A		
	堤防・護岸設計B	治水経済調査B	河川環境整備	河川景観設計
哉 [樋門・樋管設計B	水理・土砂解析B		
	床止め設計	河川水辺環境調査		
		耐震調査		
		排水機場設計B		
			Limbert (L. D.	水理計算プログラ
	降雨解析B	点検調査	広報資料作成	水 坪 計 量 / 1/1/
	水文・水質観測			
	定期縦横断測量			
l	河川台帳作成			
			$\qquad \rightarrow \qquad$	-

注:A, Bは同種の業務における難易度の違いを表し、Aは難易度が大であるもの。

(1) 地質・土質調査、単純調査業務、測量作業 業務名: 平成23年4月1日版 担当監督員 総括監督員 検査員 業務評定(注2) 管理技術者(技術管理者)、現場責任者 昭杏技術者 評定点の算出 評定点の算出 評定点の算出 評価項目 評価の視点 ②評定点 (注3) ③評定点 (注3) ①評定点 (注3) 基準 4)評定点 評定点 得点 得点 得点 業務着手段階における 業務特性等の考慮 業務遂行段階における提案 0 業務遂行上必要となる課題の提 0 業務内容等改善の提案 O 20 小 計 目的と内容の理解 0 必要情報の把握 0 作業(業務)項目、 作業(業務)手法 O 20 0 100 0 業務執行技術力 打ち合わせ資料の内容 O 20 十分な技術力 O 20 0 100 100 小 計 100 施工に関する一般的な知識 施工条件等の把握 施工時への配慮 (設計時評価、 設計業務を 対象に評定する。 イ、ロのいずれか を選択する。) 小 計 施工に関する一般的な知識 施工条件等の把握 . 『詳細設計』 の場合 施工計画 (施工方法、仮設備計画) 小 計 コスト把握能力 コスト把握能力 (設計業務を対象に評定する。 実施手順、工程計画 0 実施体制 0 ①10/10 工程管理能力 O 20 打合せ内容の理解、記録 O 40 工程管理 100 小 計 0 ミス防止の実施 ①10/10 品質管理能力 100 小 計 当初計画の変更 O 40 迅速性 関連事業者間の調整 0 ①10/10 地元住民との合意形成 O 30 100 小 計 理解しやすい説明・プレセ゚ンテ O 30 (資料) 理解しやすい説明・プレセ゚ンテーシ O 30 説明力 0 協調性 プレセンテーション力 O 20 説明を補う努力 O 20 円滑な業務遂行への努力 小 計 100 責任感、積極性 O 100 責任感 積極性 倫理観 責任感、積極性、倫理観 0 100 100 100 目的の達成度 O 40 的確なとりまとめ 0 0 30 成果品の品質 ミスの有無 0 30 100 ⑤評定点小計(注4) ⑥業務執行上の過失 業務執行に係る過失に伴う滅点 ⑦守秘性に伴う過失 ⑧事故等による減点(業務遂行段階を対象とする) ⑨成果品に、受注者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約図書に配された手続きに従い、瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点 (軽微なミスの修正を除く) ⑪その他 総合評定点の算定 総合評定点⑪=⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩ (担当監督員) (総括監督員) (検査員) は、評定対象外 O は、必須評定項目 △ は、選択評定項目 ◎ は、評定者の得点割合を示している。 所 見 注: 1. 「担当技術者」は、それぞれ3人までとする。 2. 評定点は、少数第二位を四捨五入し小数第一位とする。 3. 「得点×業務評定の重み(%) ×各評定員の比重」を小数第三位で

四捨五入し小数第二位とする。

4. 「⑤小計」は、少数第一位を四捨五入し整数とする。

				須 上 志		
	<i>₹11 (11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 </i>	証 年 の 知 上	ath Je	得点率	48 .E	\$17 AT AT D
	評価項目	評価の視点	配点	優標準劣	得点	評価細目
				1.0 0.8 0.6 0.4 0.2		・当該作業(業務)の仕様や発注者からの指示等を満たす提案が
		業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目 $f_{xy}/g_{x}=0 \Rightarrow [0.6]$ $n=1 \Rightarrow [0.8]$ 、 $n=2 \Rightarrow [1.0]$		□ された。 ・ 当該作業 (業務) の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度 調査・解析の手法・技術に関する提案がなされた。注1)
				チェック数		
		業務遂行段階における提案	40	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		□ ・作業 (業務) 遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レルに基づく提案がなされた。注1)
				チェック数		
	提案力 改善力	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		□ ・当該作業(業務)で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された
				チェック数		
		業務内容等 改善の提案	20	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・作業 (業務) の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 ・作業 (業務) の内容・精度を向上させる提案が、自主的になさた。
				チェック数		
プロセス専門技		小 計	100	(1)		
		目的と内容の 理解	20	評価細目 f_{zy} /数=0 \Rightarrow [0, 2] $n=1\Rightarrow$ [0, 4]、 $n=2\Rightarrow$ [0, 6] $n=3\Rightarrow$ [0, 8]、 $n=4\Rightarrow$ [1, 0]		□ ・業務 (調査) 計画書に必要事項が記載されていた。注2) □ ・当該作業 (業務) の目的、内容が理解されていた。 □ ・業務 (調査) 計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記があった。注2)
ス平面と特力				チェック数		・特記仕様書等に示された当該作業(業務)と関連する他の作業
		必要情報の 把握	20	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $\lceil 0, 2 \rceil$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0, 6 \rceil$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0, 8 \rceil$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1, 0 \rceil$		□ (業務)、事業が理解されていた。 □ ・作業(業務)着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・作業(業務)実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 □ ・作業(業務)遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力なされていた。 □ ・作業(業務)遂行段階で、当該作業(業務)に有意な情報が自的に提供された。
	業務執行技術力	作業(業務) 項目 作業(業務) 手法	20	評価細目チェック数=0→「0.2」 n=1→「0.4」、n=2→「0.6」 n=3→「0.8」、n=4→「1.0」 チェック数		・作業(業務)項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足しいた。 ・採用された作業(業務)手法の技術的内容は、作業(業務)の的に適合していた。 ・作業(業務)目的に照らし必要な作業(業務)項目が不足無く定され、作業(業務)項目間の整合も図られていた。・提案された作業(業務)手法は、従来技術を応用・統合化あるは は先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注1)
		打ち合わせ資料の内容	20	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0, 2 \rceil$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rceil$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rceil$		・打ち合わせ資料に大きなミスがなかった。 ・打ち合わせ資料に、作業(業務)を進めるにあたっての課題等適切に盛り込まれていた。 ・打ち合わせ資料に、作業(業務)を進めるにあたっての課題解策や提案等が適切に盛り込まれていた。 ・適用する諸基準類のない作業(業務)、若しくは難易度の高い
		十分な技術力	20	チェック教 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、 n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、 n=4⇒「1.0」 チェック数		□ 業(業務)等を進めるにあたり、的確な理論展開による説明が盛込まれていた。 □ 作業(業務)に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該作業(業務)固有の条件に対応可な十分な技術力を有していた。(測量においては、作業に応じた器等が配置されていたことも併せて評価する) □ 作業(業務)遂行段階において、発生した課題や発注者から新に指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析の手法・技術に十分対応でき能力を有していた。 と1)
			100			

注1) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

注2) 測量作業においては、埼玉県公共測量作業規程に基づく作業計画をいう。

(1)	地質・土質	質調査	、単純調査業	務、浿	量作業 ①〔担当監督	月〕	業務名: (2/4)
	評価項目		評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
		工程管理能力	実施手順 工程計画	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」		□ ・契約書等に記載された期限以内 (ex. 契約締結後14日以内)に業務工程表が提出され、速やかに作業 (業務)の着手がなされた。 □ ・業務実施方針及び工程表には、設計図書に示された事項が適切に反映されていた。 □ ・業務実施方針又は詳細な工程表には、作業 (業務) 実施上のポイントとなる工程目標等が具体的に示されていた。 □ ・作業 (調査) 項目間の実施手順等が適切に計画されていた。
			実施体制	10	評価細目 f_{xy} η 数=0 \Rightarrow 0 , 2] $n=1$ \Rightarrow 0 , 4]、 $n=2$ \Rightarrow 0 , 6] $n=3$ \Rightarrow 0 , 8]、 $n=4$ \Rightarrow 1 , 0]		- 契約図書に基づき、管理技術者等通知書及び業務計画書が提出された。注) - 業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、作業 (業務) が履行された。注 - ・配置された担当技術者若しくは照査技術者は、作業 (業務) 内容に応じた技術者が配置され、適正に履行された。 - 業務計画書 (業務組織計画) に示された実施体制は、本作業 (業務) の履行に対して十分な体制であった。注)
	管		打合せ内容の 理解、記録	20	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $[0, 2]$ n=1⇒ $[0, 4]$ 、 $n=2$ ⇒ $[0, 6]n=3$ ⇒ $[0, 8]$ 、 $n=4$ ⇒ $[1, 0]$		□ ・打合せ記録簿が、打合せ後速やかに提出された。 □ ・打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映し、打合せ後の進め方や懸案事項等が的確に整理されていた。 □ ・受注者内(再委託先等を含む)で意志疎通がなされ、指示や打ち合わせ事項が、その後の資料等に適切に反映されていた。
セス証	理 技 カ				チェック数		・打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打合せ □ 内容が理解された(打合せ後に不明点等に対する問い合わせ等を発 注者に行うことはなかった)。
価				工程管理	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」	
			小計	100	(I)		回ぎおり完了できた。
	品質管理	品質管理能力	ミス防止の実施		評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		・・チェックリスト等の品質管理の記録により、品質の管理がされたことを確認できた。 ・・品質管理のためのシステムが構築されている部署で作業(業務) が行われ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. IS09001等の認証取得状況と成果への反映の確認)
					チェック数		

注)測量作業においては、埼玉県公共測量作業規程に基づく作業計画をいう。

100

小 計

チェック数

(1)

小 計

100

(1) 地	2質・土質調査、	、単純調査業	務、測	量作業 ①〔担当監督員	月〕	業務名: (4/4)
	新	平価項目	評価の視点	配点	得点率 優地 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性	100	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $[0, 2]$ n=1⇒ $[0, 4]$ 、 $n=2$ ⇒ $[0, 6]n=3$ ⇒ $[0, 8]$ 、 $n=4$ ⇒ $[1, 0]チェック数$		□ ・管理技術者(技術管理者)、現場責任者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □ ・作業(業務)遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 □ ・作業(業務)遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。
		成果品の品質	目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数		□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・作業 (業務) 遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・作業 (業務) 成果は、作業 (業務) 目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ 高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い作業 (業務) に対し必要な作業 (業務) 成果が得られた。注)
結果評価	Fi		的確な とりまとめ	30	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・設計図書にある検討項目、作業(業務)遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 ・設計図書にある事項、作業(業務)遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow 「0.2」 $n=1\Rightarrow$ [0.4]、 $n=2\Rightarrow$ [0.6] $n=3\Rightarrow$ [0.8]、 $n=4\Rightarrow$ [1.0]		 □ ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 □ ・成果品の品質に大きく影響しない (簡易に修正できる) 計算等の ミスも認められなかった。 □ ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 □ ・必要書類も整備されていた。

1

小 計

100

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(1	(1) 地質・土質調査、単純調査業務、測量作業					総括監督 員	[用]	業務名: (1/
	THE STATE OF THE S	評価項目	評価の視点	配点	得点 優 標準 1.0 0.8 0.6	率 劣 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
プ	専門技術力	業務執行技術力	業務執行技術力	100	右記評価細目のま総合的に判断し「0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0」 る。	て「0.2」 (基準点)		・当該作業(業務)の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 ・当該作業(業務)に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 ・当該作業(業務)に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 ・当該作業(業務)の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 ・当該作業(業務)に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に計価できるものであった。
ロセ			小 計	100	得点率を入力	(2)		- ・その他(理由:)
ス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	右記評価細目の記念合的に判断して 0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0」 る。	亥当項目を て「0.2」 (基準点)		□ ・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □ ・当該作業 (業務) 遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任原に対して評価できるものであった。 □ ・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 □ ・作業 (業務) 遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、作業 (業務) を完成させた。 □ ・その他 (理由:
			小 計	100		2		
業務執行に係る過		業務執行上6	の過失	0	評価細目チェック数 1 · 減点 チェック数	つ毎に3点		□ ・業務執行上、指摘又は指導等を行ったが、改善されなかった。 □ ・関係者から苦情が寄せられる等、問題が認められた。又は、問題発生時の情報連絡等、対応が適切に行われなかった。 □ ・業務処理のミスにより大きな手戻りが生じた。 □ ・業務実施体制に問題があった。 □ ・その他(理由:
過失に伴う減点		守秘性に係る	る過失	0	評価細目チェック数1・減点(チェックは)			・業務に関する情報漏洩があり、受注者の責任によるものと発注が判断した。 ・その他(理由:

(1) 均	也質・土質調査	、単純調査業	終、	測量作業 ③〔検査員用]	業務名:	(1/1)
	Ħ	平価項目	評価の視点	配点	機 点 率 場 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
	専		作業(業務) 項目 作業(業務) 手法	50	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ チェック数		・作業(業務)項目は、特配仕様書等の設計図書の項目を満いた。 ・採用された作業(業務)手法の技術的内容は、作業(業務的に適合していた。 ・作業(業務)目的に照らし必要な作業(業務)項目が不足定され、作業(項目)項目間の整合も図られていた。・提案された作業(業務)手法は、従来技術を応用・統合化裁は先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注) の目無く設
プロセス	r門技術力	明 技 業務執行技術力 術	十分な技術力	50	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$ チェック数		・作業(業務)に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該作業(業務)固有の条件に対しな十分な技術力を有していた。(測量においては、作業に応器等が配置されていたことも併せて評価する)・作業(業務)遂行段階において、発生した課題や発注者かに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十	応可能 じた機 ら新た た。
評価		小計	100	7199W		□ ホーム、のるいは同反な順直、評判・成計等の子伝・1X別に「 応できる能力を有していた。注)		
	コミュニケー	説明力協調性	説明力	100	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		● 質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該作業 (業務 の議論が明確に区別されていた。 ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が 理解できた。 ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手 度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。	容易に
	ション	プレゼンテーション力) VC V) V3V/J		チェック数		・説明当事者の説明が十分なされた。説明が不十分な場合、 ンバーにより補足説明がなされた。	他のメ
	力		小 計	100	3			
			目的の達成度		評価細目 $f_{xy}/$ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・作業(業務)遂行段階での指示事項が、漏れなく実施され □ ・作業(業務)成果は、作業(業務)目的に照らし満足でき のものであった。	-
					チェック数		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の 業(業務)に対し必要な作業(業務)成果が得られた。注)	高い作
結果評価	J	成果品の品質	的確な とりまとめ	30	評価細目 f_{xy} 2数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $y=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $y=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $y=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・設計図書にある検討項目、作業(業務)遂行段階での指示を、漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工られ読みやすい。	夫がみ
тш					チェック数		・設計図書にある事項、作業 (業務) 遂行段階での指示事項 づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。	を関連
			ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 □ ・成果品の品質に大きく影響しない (簡易に修正できる) 計: ミスも認められなかった。 □ ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。	算等の
					チェック数		・必要書類等も整備されていた。	
			小 計	100	3			

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(2)調査業務、計画業務 業務名: 平成23年4月1日版 担当監督員 総括監督員 検査員 業務評定(注2) 管理技術者(技術管理者)、現場責任者 評定点の算出 昭杏技術者 評定点の算出 評定点の算出 評価項目 評価の視点 ①評定点 (注3) ②評定点 (注3) ③評定点 (注3) 4)評定点 評定点 得点 得点 得点 業務着手段階における 業務特性等の考慮 業務遂行段階における提案 0 業務遂行上必要となる課題の提 0 業務内容等改善の提案 0 100 目的と内容の理解 0 必要情報の把握 0 検討項目、検討手法 100 0 0 0 業務執行技術力 打ち合わせ資料の内容 0 十分な技術力 O 20 O 50 100 100 施工に関する一般的な知識 施工条件等の把握 施工時への配慮 (設計時評価、 設計業務を 対象に評定する。 イ、口のいずれか を選択する。) 小 計 施工に関する一般的な知識 施工条件等の把握 ロ.『詳細設計』 の場合 施工計画 (施工方法、仮設備計画) 小 計 コスト把握能力 コスト把握能力 (設計業務を対象に評定する。 実施手順、工程計画 0 実施体制 0 ①10/10 工程管理能力 打合せ内容の理解、記録 0 20 0 40 工程管理 100 ミス防止の実施 0 100 ①10/10 品質管理能力 100 小 計 0 当初計画の変更 関連事業者間の調整 0 ①10/10 30 地元住民との合意形成 0 100 里解しやすい説明・プレセ゚ンデ O 30 (資料) 理解しやすい説明・プレセ゚ンテーシ 0 説明力 0 協調性 プレセ・ンテーション力 説明を補う努力 0 O 20 円滑な業務遂行への努力 100 100 O 100 責任感、積極性 責任感 積極性 倫理観 責任感、積極性、倫理観 0 100 100 100 目的の達成度 O 40 O 30 的確なとりまとめ 0 30 成果品の品質 ミスの有無 30 O 30 100 ⑤評定点小計(注4) ⑥業務執行上の過失 業務執行に係る過失に伴う減点 ⑦守秘性に伴う過失 ⑧事故等による滅点(業務遂行段階を対象とする) ⑨成果品に、受注者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約図書に配された手続きに従い、瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点 (軽微なミスの修正を除く) ⑪その他 総合評定点の算定 総合評定点⑪=⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩ (担当監督員) (総括監督員) (検査員) は、評定対象外 〇 は、必須評定項目 ◎ は、評定者の得点割合を示している。 見 注: 1. 「担当技術者」は、それぞれ3人までとする。
2. 評定点は、少数第二位を四捨五入し小数第一位とする。
3. 「得点×業務評定の重み (%) ×各評定員の比重」を小数第三位で四拾五入し小数第二位とする。
4. 「⑤小計」は、少数第一位を四捨五入し整数とする。

(2	2)調査業務、計画業務 ①担当監督員用〕						業務名: (1/4			
	ii H	平価項目	評価の視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目			
			業務着手段階における業務特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」 チェック数		□ ・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた ・当該作業 (業務) の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度 調査・解析の手法・技術に関する提案がなされた。注)			
			業務遂行段階における提案	40	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow [0.6]$ $n=1 \Rightarrow [0.8]$ 、 $n=2 \Rightarrow [1.0]$	_	□ ・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □ ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レルに基づく提案がなされた。注)	ベ		
		提案力改善力	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、 $n=2$ ⇒「1.0」		□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。	0		
			業務内容等改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 =1⇒「0.8」、 =2⇒「1.0」		□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。			
			小計	100	チェック数					
プロセス評	専門技術力		目的と内容の理解	20	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 □・業務(調査)計画書に必要事項が記載されていた。 □・当該業務の目的、内容が理解されていた。 □・業務(調査)計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記があった。 	述		
価	力				チェック数		・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が 解されていた。	理		
			必要情報の 把握	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 □ ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされいた。	て		
					チェック数		□ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。	0		
		業務執行技術力	検討項目 検討手法	20	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 □・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項間の整合も図られていた。 			
					チェック数		・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。 注)	支		
			打ち合わせ 資料の内容	20	評価細目 $f_{\pm\eta}/\overline{2} = 0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$		□・打ち合わせ資料に大きなミスがなかった。 □・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題等が適切にり込まれていた。 □・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題解決策や提等が適切に盛り込まれていた。	案		
					チェック数		・適用する諸基準類のない業務、若しくは難易度の高い業務等を めるにあたり、的確な理論展開による説明が盛り込まれていた。			
			十分な技術力	20	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理されていた。 特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分技術力を有していた。 業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示れた事項について十分満足できる解決が図られていた。 	な		
					チェック数		・新たな、あるいは高度な調査・解析等の手法・技術に十分対応で る能力を有していた。 注)	き		

1

小 計

100

(2)	調杏業務	計画業務	①相当監督員	∄`

業務名: (2/4)

(2	2) 調宜耒務、計画耒務 ①担ヨ監督貝用〕			業務名 :	(2/4)			
		平価項目	評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			実施手順 工程計画	30	評価細目 f_{xy} 7数 $=0$ ⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$		・契約書等に記載された期限以内(ex. 契約締結後14日以内)に工程表が提出され、速やかに業務の着手がなされた。 ・業務実施方針及び工程表には、設計図書に示された事項が適に受映されていた。 ・業務実施方針又は詳細な工程表には、業務実施上のポイントる工程目標等が具体的に示されていた。 ・作業(調査、検討)項目間の実施手順等が適切に計画されて	別にとな
			実施体制	10	チェック数 評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow 「0.2」 $n=1\Rightarrow$ 「0.4」、 $n=2\Rightarrow$ 「0.6」 $n=3\Rightarrow$ 「0.8」、 $n=4\Rightarrow$ 「1.0」		□・作業 (調査、検討) 項目間の実施手順等が適切に計画されてした。 □・契約図書に基づき、管理技術者等通知書及び業務計画書が提けれた。 □・業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、務が履行された。 □・配置された担当技術者若しくは照査技術者は、業務内容に応技術者が配置され、適正に履行された。 □・業務計画書(業務組織計画)に示された実施体制は、本業務行だ対して十分な体制であった。	出さ . 業 じた
プロセス	管理技	工程管理能力	打合せ内容の理解、記録	20	評価細目 f_{xy} 7数 $=0$ ⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$		□・打合せ記録簿が、打合せ後速やかに提出された。 ・打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映し、記せ後の進め方や懸案事項等が的確に整理されていた。 ・受注者内(再委託先等を含む)で意志疎通がなされ、指示や記合わせ事項が、その後の資料等に適切に反映されていた。 ・打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打き	打ち
ス評価	投術力				チェック数		□ 内容が理解された(打合せ後に不明点等に対する問い合わせ等・ 注者に行うことはなかった)。	を発
11111	☆ / / / / / / / / / / / / / / / / / / /		工程管理	40	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・指示や注意を行う必要のあるような工程の遅れや、履行期限 納品されない等はなかった。 ・設計図書に基づく作業状況の報告、履行報告等を適切な時期は 出していた。 ・関連する他の業務や工事等に影響を及ぼすことなく完了でき	こ提
					チェック数		・履行中のポイントとなる工程目標等も含め、全体を通して工程 画どおり完了できた。	皇計
			小 計	100	1			
		品質管理能力	ミス防止の 実施	100	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		・チェックリスト等の品質管理の記録により、品質の管理がさったとを確認できた。 ・品質管理のためのシステムが構築されている部署で作業(業)が行われ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. IS09001等の認証取得状況と成果への反映の確認)	
			ال الله	100	チェック数			
			小 計	100	1			

(2)	調杏業務	計画業務	① 相 当 監 督 昌 用 〕

業務名: (3/4)

\ _	, H	HEAT, THE		- шш. — .	24/142		X437-11 ·
	Ħ	平価項目	評価の視点	配点	得 点 率 優 標準 劣	得点	評 価 細 目
			当初計画の 変更	40	1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		・業務遂行中に生じた、当初工程計画や業務内容の変更要請、あるいは監督員の指示等に迅速に対応した。 ・その結果生じた検討内容が特に優れていた。
	管理技術力	迅速性 弾力性 調整能力	関連事業者間の調整	30	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」 チェック数		・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、関連 事業者間の調整に係わる提案資料が作成された。 ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
	73	William BE S	地元住民との 合意形成	30	評価細目チェック数=0→「0.6」 n=1→「0.8」、n=2→「1.0」		・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、地元 住民等との合意形成 (円滑な業務履行の確保に資する地元等への配慮等を含む) に係わる提案資料が作成された。
		-	小 計	100	チェック数		
プロセス評価			理解しやすい 説明 プレゼンテーション (資料)	30	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 □ ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 □ ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができ
	コッコ		理解しやすい 説明 プレゼンテーション (対応)	30	チェック数 評価細目チェック数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ た。 □ ・打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 □ ・質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答期限が提示された。 □ ・般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 ・ 曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に
	ニケーションカ	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明を補う 努力	20	チェック数 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」		□ 理解できた。 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 □ ・説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 □ ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。
			円滑な業務遂行への努力	20	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。 □ ・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。
			小 計	100	チェック数		
	I		小 計	100			

(2) 調査業務、計画業務 ①担当監督員用〕

業務名: (4/4)

	2 / 阙直未切、叶画未切 ①四日画目兵/川)								
	i	平価項目	評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目		
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。		
			小 計	100	①				
			目的の達成度的確なとりまとめ	40	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。□・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。□・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。		
		成果品の品質			チェック数		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注)		
結果評	ĵ			30	評価細目 $f_{xy}/$ 数 $=0$ \Rightarrow $[0, 2]$ $n=1$ \Rightarrow $[0, 4]$ 、 $n=2$ \Rightarrow $[0, 6]$ $n=3$ \Rightarrow $[0, 8]$ 、 $n=4$ \Rightarrow $[1, 0]$		□・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。		
価					チェック数		・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。		
				=	ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ チェック数		□ ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 □ ・成果品の品質に大きく影響しない (簡易に修正できる) 計算等の ミスも認められなかった。 □ ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 □ ・必要書類も整備されていた。
			小 計	100	①				

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(2	2) 貳	問査業務、計画	i業務 ②総括	5監督	員用〕			業務名:	(1/1)
	専門技術力 東門技術力 東門技術力 取組姿勢 取組姿勢 業務執行上の演		評価の視点	配点	得点 優 標準 1.0 0.8 0.6	劣	得点	評 価 細 目	
-8	門技術	業務執行技術力	業務執行 技術力	100	右記評価細目の 総合的に判断し 「0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0」 る。	て「0.2」 (基準点)		□ ・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものあった。 □ ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものあった。 □ お該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価るものであった。 □ ・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものあった。 □ ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価でものであった。)で iでき)で
プロセ					得点率を入力			□ ・その他(理由:)	
ス評			小 計	100		2			
価	取 責任感組 積極性	責任感 積極性 倫理観	100	右記評価細目の 総合的に判断し 「0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0 る。	て「0.2」 (基準点)		□・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対評価できるものであった。 □・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 □・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体とし制の拡充を図る等により、業務を完成させた。		
					得点率を入力			□ ・その他 (理由:)	
			小 計	100		2			
業務執行に係る	業務執行上				評価細目チェック数1 減点	つ毎に3点 ⑥		□ ・業務執行上、指摘又は指導等を行ったが、改善されなかった。 □ ・関係者から苦情が寄せられる等、問題が認められた。又は、発生時の情報連絡等、対応が適切に行われなかった。 □ ・業務処理のミスにより大きな手戻りが生じた。 □ ・業務実施体制に問題があった。	-
る過					チェック数			□ ・その他(理由:)
失に伴う減点		守秘性に係る	5過失	0	評価細目チェック数1 減点(チェック)			・業務に関する情報漏洩があり、受注者の責任によるものと発が判断した。 ・その他(理由:	注者

チェック数

(2) 訓	間査業務、計画	業務 ③〔核	負查負	用〕		業務名:	(1/1)
	in in	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
	専		検討項目 検討手法	50	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow f 0.2」 $n=1\Rightarrow$ f 0.4」、 $n=2\Rightarrow$ f 0.6」 $n=3\Rightarrow$ f 0.8」、 $n=4\Rightarrow$ f 1.0〕		□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足してい ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合した。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検 間の整合も図られていた。 ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは気 術を活用するなど、難易度の高いものであった。注)	てい 討項目
プロセス評	門技術力	業務執行技術力	十分な技術力	50	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow f 0.2」 $n=1$ \Rightarrow f 0.4」、 $n=2$ \Rightarrow f 0.6」 $n=3$ \Rightarrow f 0.8」、 $n=4$ \Rightarrow f 1.0」		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たにれた事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に応できる能力を有していた。注	十分な指示さ
価			小 計	100	3			
	コミュニケーション	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $[0.2]$ n=1⇒ $[0.4]$ 、 $n=2$ ⇒ $[0.6]n=3$ ⇒ $[0.8]$ 、 $n=4$ ⇒ $[1.0]$		□ ・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が理解できた。 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ ・説明当事者の説明が十分なされた。または、説明が不十分合、他のメンバーにより補足説明がなされた。	容易にの理解
	力		小 計	100	3			
			目的の達成度	40	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものである。 	-
					チェック数		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の 務に対し必要な業務成果が得られた。注)	
結果評価	J.	成果品の品質	的確な とりまとめ	30	評価細目 $f_{xy}/y_0 = 0 \Rightarrow [0, 2]$ $y = 1 \Rightarrow [0, 4]$, $y = 2 \Rightarrow [0, 6]$ $y = 3 \Rightarrow [0, 8]$, $y = 4 \Rightarrow [1, 0]$		・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、 〈取りまとめている。 □・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工 られ読みやすい。 ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づ	夫がみ
					チェック数		要な点が理解しやすく取りまとめられている。	·/ · =
			ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 ・成果品の品質に大きく影響しない(簡易に修正できる)計 ミスも認められなかった。 ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 	算等の
					チェック数		・必要書類等も整備されていた。	
			小 計	100	3			

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(3)設計業務「概略・予備設計」 業務名: 平成23年4月1日版 担当監督員 総括監督員 検査員 業務評定(注2) 管理技術者(技術管理者)、現場責任者 評定点の算出 昭杏技術者 評定点の算出 評定点の算出 評価項目 評価の視点 ①評定点 (注3) ③評定点 (注3) ③評定点 (注3) 4)評定点 評定点 得点 得点 得点 業務着手段階における 業務特性等の考慮 業務遂行段階における提案 0 業務遂行上必要となる課題の提 0 業務内容等改善の提案 0 100 目的と内容の理解 0 必要情報の把握 0 20 検討項目、検討手法 20 100 0 0 0 業務執行技術力 打ち合わせ資料の内容 0 十分な技術力 O 20 O 50 100 小 計 100 施工に関する一般的な知識 10/10 施工条件等の把握 『予備設計』 の場合 施工時への配慮 (設計時評価、 設計業務を 対象に評定する。 小 計 100 施工に関する一般的な知識 (、口のいずれか を選択する。) 30 施工条件等の把握 ロ.『詳細設計』 の場合 施工計画 (施工方法、仮設備計画) 30 100 小 計 Δ 100 10/10 コスト把握能力 コスト把握能力 (設計業務を対象に評定する。 100 小 計 実施手順、工程計画 0 実施体制 0 ①10/10 工程管理能力 打合せ内容の理解、記録 0 20 O 40 工程管理 100 ミス防止の実施 0 100 ①10/10 品質管理能力 100 小 計 当初計画の変更 0 関連事業者間の調整 0 ①10/10 30 地元住民との合意形成 0 100 里解しやすい説明・プレセ゚ンデ O 30 (資料) 理解しやすい説明・プレセ゚ンテーシ 0 説明力 0 協調性 プレセ・ンテーション力 説明を補う努力 0 O 20 円滑な業務遂行への努力 100 100 O 100 責任感、積極性 責任感 積極性 倫理観 責任感、積極性、倫理観 0 100 100 100 目的の達成度 O 40 O 30 的確なとりまとめ 0 30 成果品の品質 ミスの有無 30 O 30 100 ⑤評定点小計(注4) ⑥業務執行上の過失 業務執行に係る過失に伴う減点 ⑦守秘性に伴う過失 ⑧事故等による滅点(業務遂行段階を対象とする) ⑨成果品に、受注者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約図書に配された手続きに従い、瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点 (軽微なミスの修正を除く) ⑪その他 総合評定点の算定 総合評定点⑪=⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩ (担当監督員) (総括監督員) (検査員) は、評定対象外 〇 は、必須評定項目 ◎ は、評定者の得点割合を示している。 見 注: 1. 「担当技術者」は、それぞれ3人までとする。 2. 評定点は、少数第二位を四捨五入し小数第一位とする。 3. 「得点×業務評定の重み(%) ×各評定員の比重」を小数第三位で 四捨五入し小数第二位とする。

4. 「⑤小計」は、少数第一位を四捨五入し整数とする。

(3	3) 部	设計業務 「概略	設計・予備部	法計」	①〔担当監督員用〕		業務名:	(1/5)
					得 点 率			
	Ħ	評価項目	評価の視点	配点	優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			業務着手段階における業務特性等の考慮	20	1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 irim細目チェック数=0⇒「0.6」		・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなさ ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調 析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注)	-
			業務遂行段階における提案	40	評価細目チュック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		□ ・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □ ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技ルに基づく提案がなされた。注)	術レベ
		提案力改善力	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」		□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案さ	れた。
					チェック数			
	ロセス評 専門技術力		業務内容等改善の提案	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow 「0.6」 $n=1\Rightarrow$ 「0.8」、 $n=2\Rightarrow$ 「1.0」		□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。	·•
					チェック数			
			小 計	100	1			
プロセス評価			目的と内容の 理解	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・業務計画書に必要事項が記載されていた。□ ・当該業務の目的、内容が理解されていた。□ ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述がた。	
価					チェック数		・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事 解されていた。	業が理
			必要情報の 把握	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $y=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $y=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $y=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた □ ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がないた。	-
			l'		チェック数	l	□ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供さ	れた。
		業務執行技術力	検討項目 検討手法	20	評価細目 $f_{xy}/$ 数 $=0 \Rightarrow [0, 2]$ $n=1 \Rightarrow [0, 4]$ 、 $n=2 \Rightarrow [0, 6]$ $n=3 \Rightarrow [0, 8]$ 、 $n=4 \Rightarrow [1, 0]$		□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足してい ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合した。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検 間の整合も図られていた。 □ ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは外	でい
				<u> </u>	チェック数	<u> </u>	□ 術を活用するなど、難易度の高いものであった。 <mark>注)</mark>	
			打ち合わせ資料の内容	20	評価細目 f_{xy} /数 $=0$ ⇒ $\lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0, 4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1, 0 \rfloor$ チェック数	-	 ・打ち合わせ資料に大きなミスがなかった。 ・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題等が適り込まれていた。 ・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題解決策等が適切に盛り込まれていた。 ・適用する諸基準類のない業務、若しくは難易度の高い業務めるにあたり、的確な理論展開による説明が盛り込まれていることを表しています。 	や提案
			十分な技術力	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たにれた事項について十分満足できる解決が図られていた。	た理解 :十分な :指示さ
				<u> </u>	チェック数		□ ・利にな、めるV は同及な両直・滑が : 政司 寺の子伝・12 附に 「 応できる能力を有していた。注)	
1	. '	1	小 卦	100	1	1	1	

(3	3) 部	と計業務 「概略	設計・予備部	計」	①〔担当監督員用〕		業務名: (2/5
	i i	平価項目	評価の視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
		施工時への配慮 〔設計時評価〕	施工に関する 一般的な知識	60	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$		・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 ・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 ・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。
		(設計業務を対象 に評定する。) 概略設計 予備設計	施工条件の 把握	40	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。 ・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 ・当該地域の環境特性を把握していた。 ・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。
					チェック数		・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報 を把握した。
		ります。 「施工時への配慮」	小 計	100	①		・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識
19	専門		施工に関する一般的な知識	40	評価細目 f_{zy} h		・ 放訂、図園作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 □ ・ 施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 ・ 施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。
プロカ					チェック数		□ ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
セス評価	技術力		価〕 施工条件の 把握	30	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。□ ・当該地域の環境特性を把握していた。□ ・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。
		詳細設計			チェック数		・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。
			施工計画 (施工方法、 仮設備計画)	30	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow 「0.2」 $n=1\Rightarrow$ 「0.4」、 $n=2\Rightarrow$ 「0.6」 $n=3\Rightarrow$ 「0.8」、 $n=4\Rightarrow$ 「1.0」		・必要事項を記載した施工計画が提案された。 ・施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案された。 ・工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備計画が提案された。 ・当該工事別における施工上の留意事項が、重要度別かつ施工段
			小 計	100	①		□ 階毎に適切に整理する提案がなされた。 □
		コスト把握能力(設計業務を対象に評定する。)	コスト把握能力	100	評価細目 $f_{xy}/g_{0}=0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		 □ ・工事費に関するコスト把握能力を有していた。 □ ・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。 □ ・コスト縮減に係わる提案があった。 □ ・ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念
		/ 🐠 /			チェック数		・フィノサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを志 頭においたコスト縮減に係わる提案があった。
			小 計	100	1		

(3	3) 討	2計業務 「概略	設計・予備認	设計」	①〔担当監督員用〕		業務名:	(3/5)
	i	平価項目	評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			実施手順 工程計画	30	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ チェック数		- 契約書等に記載された期限以内(ex. 契約締結後14日以内)に工程表が提出され、速やかに業務の着手がなされた。 - 業務実施方針及び工程表には、設計図書に示された事項が近反映されていた。 - 業務実施方針又は詳細な工程表には、業務実施上のポインる工程目標等が具体的に示されていた。 - 作業(調査、検討、設計)項目間の実施手順等が適切に計画でいた。	適切に
			実施体制	10	評価細目 f_{xy} ρ 数=0 \Rightarrow 0 , 2] $n=1$ \Rightarrow 0 , 4]、 $n=2$ \Rightarrow 0 , 6] $n=3$ \Rightarrow 0 , 8]、 $n=4$ \Rightarrow 1 , 0]		・契約図書に基づき、管理技術者等通知書及び業務計画書が打れた。 ・業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により務が履行された。 ・配置された担当技術者若しくは照査技術者は、業務内容に及技術者が配置され、適正に履行された。 ・業務計画書(業務組織計画)に示された実施体制は、本業利行に対して十分な体制であった。	り、業応じた
		工程管理能力	打合せ内容の理解、記録	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \rightarrow $[0.2]$ $y = 1 \rightarrow [0.4]$ 、 $y = 2 \rightarrow [0.6]$ $y = 3 \rightarrow [0.8]$ 、 $y = 4 \rightarrow [1.0]$		□・打合せ記録簿が、打合せ後速やかに提出された。 ・打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映し、せ後の進め方や懸案事項等が的確に整理されていた。 ・受注者内(再委託先等を含む)で意志疎通がなされ、指示な合わせ事項が、その後の資料等に適切に反映されていた。 ・打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打合を必要を表しませる。	や打ち 打合せ
プロセス評価	官理技術力		工程管理	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数		注者に行うことはなかった)。 ・指示や注意を行う必要のあるような工程の遅れや、履行期間 納品されない等はなかった。 ・設計図書に基づく作業状況の報告、履行報告等を適切な時期 出していた。 ・関連する他の業務や工事等に影響を及ぼすことなく完了でき 履行中のポイントとなる工程目標等も含め、全体を通して 画どおり完了できた。	期に提きた。
			小 計	100	①			
		品質管理能力 概略設計 予備設計	ミス防止の実施	100	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」 チェック数		・チェックリスト等の品質管理の記録により、品質の管理がことを確認できた。 ・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行っれ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. IS09001等の認証取得状況と成果への反映の確認)	
			小 計	100	1			
		品質管理能力	ミス防止 <i>の</i> 実施	100	評価細目 $f_{zy}/$ 数=0 \Rightarrow $\lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$		□ ・業務計画書等に、照査体制、照査計画等が記載されていた。 □ ・業務計画書等に照査担当者が配置されていた。 □ ・照査報告書等の品質管理の記録により、照査が実施された、確認できた。	ことを
		詳細設計			チェック数		・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行っれ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。 (ex. ISO9001等の認証取得状況と成果への反映の確認)	行わ

小 計

(3) 設計業務「概略設計・予備設計」 ①〔担当監督員用〕 業務名: (4/5)得 占 率 評価項目 評価の視点 配点 優 標準 得点 評価細目 劣 0.8 0.6 0.4 0.2 ・業務遂行中に生じた、当初工程計画や業務内容の変更要請、あるいは監督員の指示等に迅速に対応した。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 □ ・その結果生じた検討内容が特に優れていた。 当初計画の $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ 40 変更 チェック数 発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、関連 ■ 事業者間の調整に係わる提案資料が作成された。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ 関連事業者間 迅速性 30 の調整 班 弾力性 技 術 チェック数 調整能力 ・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、地元 □ 住民等との合意形成(円滑な業務履行の確保に資する地元等への配 慮等を含む) に係わる提案資料が作成された。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 地元住民との =1⇒「0.8」、"=2⇒「1.0」 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 30 合意形成 チェック数 100 1 小 計 □ ・日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 理解しやすい セ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 説明 30 プレセンテーション 評 □ ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 (資料) 価 ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができ チェック数 □ ± □ ・打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回 理解しやすい $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ 答期限が提示された。 プルゼンテーション プレゼンテーション 30 □ ・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 (対応) ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に □ **理解できた。** チェック数 説明力 ケ 協調性 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ プレセンテーション力 □ ・説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 Ξ 説明を補う 20 ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 努力 カ チェック数 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。 □ ・密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 $\ \square$ ・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。 円滑な業務 $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ 20 遂行への努力 チェック数

(1)

小 計

100

(3) 🖡	设計業務 「概略	設計・予備部	设計」	①〔担当監督員用〕		業務名:	(5/5)
		評価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow [0, 2]$ $n=1 \Rightarrow [0, 4]$ 、 $n=2 \Rightarrow [0, 6]$ $n=3 \Rightarrow [0, 8]$ 、 $n=4 \Rightarrow [1, 0]$ チェック数		□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの記無かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなった。 □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項再確認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせるが迅速になされた。	かっ 〔等が
			小 計	100	①			
			目的の達成度	40	評価細目 $f_{xy}/$ 数 $=0$ ⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$		□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ ・高度な技術と、要は得るなる検討項目など、難易度の高	0
結果評価		成果品の品質	的確なとりまとめ	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」		□ 務に対し必要な業務成果が得られた。注) □ ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、派 〈取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □ ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工会においた。 □ ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づいまな点が理解しやすく取りまとめられている。	夫がみ
			ミスの有無		評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $y = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $y = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $y = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 □ ・成果品の品質に大きく影響しない(簡易に修正できる)計算 まスも認められなかった。 □ ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。	算等の
				100	チェック数		必要書類も整備されていた。	
1			小 計	100	1			

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(3	3) 責	専門技術力 業務執行技術力 素務執行技術力 小 責 積 倫 倫理網	設計・予備部	设計」	②〔総括監督	肾 員用〕		業務名:	(1/1)
	Tink.	評価項目	評価の視点	配点	得点 優 標準 1.0 0.8 0.6	劣	得点	評 価 細 目	
	門			□ ・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるもあった。 □ ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるもあった。 □ ・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価をものであった。 □ ・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるもあった。 □ ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価ものであった。	ので 価でき ので				
プロル					得点率を入力			□ ・その他(理由:)
セス評			小 計	100		2			
価	組姿	積極性	責任感 積極性 倫理観	100	右記評価細目の 総合的に判断し 「0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0」 る。	て「0.2」 (基準点)		 ・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に評価できるものであった。 ・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 ・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体と制の拡充を図る等により、業務を完成させた。 	して体
					得点率を入力			- その他(理由:)
			小 計	100		2			
業務執行に係		業務執行上の	の過失	0	評価細目チェック数1つ毎に3点 減点			 ・業務執行上、指摘又は指導等を行ったが、改善されなかっ ・関係者から苦情が寄せられる等、問題が認められた。又は発生時の情報連絡等、対応が適切に行われなかった。 ・業務処理のミスにより大きな手戻りが生じた。 ・業務実施体制に問題があった。 	-
る過					チェック数			□ ・その他(理由:)
失に伴う減点	典 業務執行上の過失 で		5過失	0	評価細目チェック数1減点(チェック)		-	・業務に関する情報漏洩があり、受注者の責任によるものとが判断した。 ・その他(理由:	発注者

(3	3)意	2.計業務「概略	設計・予備部	計」	③〔検査員用〕		業務名:	(1/1)
	Ē	評価項目	評価の視点	配点	機 点 率 (要 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
	専		検討項目 検討手法	50	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0]		□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足している。 ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合した。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、相間の整合も図られていた。 ・ ・ 提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは術を活用するなど、難身度の高いものであった。 注:	でい
プロセス評	門技術力	業務執行技術力	十分な技術力	50	評価細目 f_{17} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ チェック数		□ ・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分されていた。 □ 技術力を有していた。 □ ・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たにれた事項について十分満足できる解決が図られていた。 □ ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に応できる能力を有していた。 注	よ十分な こ指示さ
価			小 計	100	3			
	コミュニケーショ	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$ チェック数		・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の明確に区別されていた。 ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が理解できた。 ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ 売いまするの説明が十分なされた。または、説明が不十分合、他のメンバーにより補足説明がなされた。	ぶ容易に ≤の理解
	カ		小 計	100	3			
			目的の達成度	40	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $\lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0, 4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1, 0 \rfloor$		□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。□ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。□ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものである。	らった。
					チェック数		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の 務に対し必要な業務成果が得られた。注))高い業
結果評価	J	成果品の品質	的確な とりまとめ	30	評価細目 f_{xy} ρ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、 く取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意」 られ読みやすい。 ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連へ 要な点が理解しやすく取りまとめられている。	こ夫がみ
			ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} η 数=0 \Rightarrow 0 , 2 J $n=1$ \Rightarrow 0 , 4 J , $n=2$ \Rightarrow 0 , 6 J $n=3$ \Rightarrow 0 , 8 J , $n=4$ \Rightarrow 1 , 0 J		□ ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 □ ・成果品の品質に大きく影響しない (簡易に修正できる) 言 これも認められなかった。 □ ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 □ ・必要書類等も整備されていた。	+算等の
			小計	100	3			
Щ					<u> </u>			

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(3)設計業務「詳細設計」 業務名: 平成23年4月1日版 担当監督員 総括監督員 検査員 業務評定(注2) 管理技術者(技術管理者)、現場責任者 昭杏技術者 評定点の算出 評定点の算出 評定点の算出 評価項目 評価の視点 ①評定点 (注3) ②評定点 (注3) ③評定点 (注3) ④評定点 評定点 得点 得点 得点 業務着手段階における 業務特性等の考慮 業務遂行段階における提案 0 業務遂行上必要となる課題の提 0 業務内容等改善の提案 0 小 計 100 目的と内容の理解 0 必要情報の把握 0 20 検討項目、検討手法 20 100 0 0 0 業務執行技術力 打ち合わせ資料の内容 0 十分な技術力 O 20 0 100 100 小 計 100 施工に関する一般的な知識 . 『概略設計』 『予備設計』 の場合 施工条件等の把握 施工時への配慮 (設計時評価、 設計業務を 対象に評定する。 施工に関する一般的な知識 イ、ロのいずれか を選択する。) 10/10 施工条件等の把握 .『詳細設計』 の場合 30 (施工方法、仮設備計画) 100 小 計 100 コスト把握能力 ①10/10 Δ コスト把握能力 (設計業務を対象に評定する。 100 小 計 実施手順、工程計画 0 実施体制 0 ①10/10 工程管理能力 打合せ内容の理解、記録 0 20 0 40 工程管理 100 小 計 ミス防止の実施 0 100 ①10/10 品質管理能力 100 小 計 当初計画の変更 0 迅速性 関連事業者間の調整 0 ①10/10 30 地元住民との合意形成 0 小 計 100 理解しやすい説明・プレセ゚ン O 30 (資料) 理解しやすい説明・プレセ゚ンテーシ 0 説明力 0 協調性 プレセンテーション力 説明を補う努力 0 O 20 円滑な業務遂行への努力 100 100 責任感、積極性 O 100 責任感 積極性 倫理観 責任感、積極性、倫理観 0 100 100 100 目的の達成度 O 40 的確なとりまとめ 30 0 30 成果品の品質 ミスの有無 30 0 30 100 100 ⑤評定点小計(注4) ⑥業務執行上の過失 業務執行に係る過失に伴う減点 ⑦守秘性に伴う過失 ⑧事故等による減点(業務遂行段階を対象とする) ⑨成果品に、受注者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約図書に配された手続きに従い、瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点 (軽衡なミスの修正を除く) ⑪その他 総合評定点の算定 総合評定点①=5+6+7+8+9+⑩ (担当監督員) (総括監督員) (検査員) は、評定対象外 〇 は、必須評定項目 △ は、選択評定項目 ◎ は、評定者の得点割合を示している。 所 見 注: 1. 「担当技術者」は、それぞれ3人までとする。 2. 評定点は、少数第二位を四捨五入し小数第一位とする。 3. 「得点、業務評定の重み(%) ×各評定員の比重」を小数第三位で四捨五入し小数第二位とする。

4. 「⑤小計」は、少数第一位を四捨五入し整数とする。

(3) 設計業務「詳細設計」 ①〔担当監督員用〕

業務名: (1/5)

()	/ H2		KHIJ ©	()			米 物有:
	i	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
			業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目 $f_{xy}/$ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	12	□ ・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。 ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注)
					チェック数 0		
			業務遂行段階における提案	40	評価細目 $f_{xy}/$ 数=0→ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=1$ → $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=2$ → $\lceil 1.0 \rfloor$	24	□ ・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 □ ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注)
					チェック数 0		
		提案力改善力	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow [0.6] $n=1\Rightarrow$ [0.8]、 $n=2\Rightarrow$ [1.0]	12	□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。
					チェック数 0		
			業務内容等 改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」	12	□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。
					チェック数 0		
			.1. #1.	100		60	
	ļ		小 計	100	1	00	
プロセス評	専門技術力		目的と内容の 理解	20	評価細目 f_{xy} ク数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	4	□ ・業務計画書に必要事項が記載されていた。□ ・当該業務の目的、内容が理解されていた。□ ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。
価	//				チェック数 0		・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理解
			必要情報の 把握	20	評価細目 f_{xy} f 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ チェック数	4	□ されていた。 □ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 □ ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 □ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。
					7 ± 77 M		一一大切を日秋間で、日政末切に日本が旧林が日上町に近回でありた。
		業務執行技術力	検討項目検討手法	20	評価細目 f_{xy} f_{y}	4	 ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 ・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術
					/ / / TX U		□ を活用するなど、難易度の高いものであった。注)
			打ち合わせ 資料の内容	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数 0	4	□・打ち合わせ資料に大きなミスがなかった。 □ ・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題等が適切に盛り込まれていた。 □ ・打ち合わせ資料に、業務を進めるにあたっての課題解決策や提案等が適切に盛り込まれていた。 □ ・適用する諸基準類のない業務、若しくは難易度の高い業務等を進めるにあたり、的確な理論展開による説明が盛り込まれていた。
			十分な技術力	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数	4	・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 ・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。 ・
			. 31	100	(I)		くさる肥力を有していた。仕/
			小 計			20	

(3) 設計業務「詳細設計」 ① [担当監督員用] 業務名: (2/5)

(3) 成計表榜「計神成計」 ①〔担当監督負用〕							未伤石. (2/3)		
	評価項目		評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目		
		施工時への配慮 〔設計時評価〕	施工に関する 一般的な知識	60	評価細目 $f_{\pm y}$ /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な有していた。 □ ・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解してい ・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有し た。	た。	
					チェック数 0		□ ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた	•0	
		(設計業務を対象 に評定する。) 概略設計			評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $[0.2]$ n=1⇒ $[0.4]$ 、 $n=2$ ⇒ $[0.6]$		□ ・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた □ ・当該地域の環境特性を把握していた。	• •	
		予備設計	施工条件の 把握	40	$n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$				
							・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。	I+++n . 2.	
					チェック数 0		・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の 把握した。	情報を	
			小 計	100	1				
		施工時への配慮	施工に関する 一般的な知識 施工条件の 把握	40	評価細目 $f_{xy}/$ 数= $0 \rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ 、 $n=2 \rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=4 \rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な 有していた。	知識を	
							□ ・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解してい	た。	
	+					8	・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有し	てい	
プ							/C ₀		
ロセ	専門				チェック数 0		□ ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた	• 0	
ス評	技術			30	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow [0.2] $n=1\Rightarrow$ [0.4]、 $n=2\Rightarrow$ [0.6] $n=3\Rightarrow$ [0.8]、 $n=4\Rightarrow$ [1.0]		□ ・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた	• 0	
価	力	[設計時評価]				6	□ ・当該地域の環境特性を把握していた。		
		(設計業務を対象 に評定する。)				٠	□ ・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。		
		詳細設計			チェック数 0		・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の 把握した。	情報を	
			施工計画 (施工方法、 仮設備計画)	30	評価細目 $f_{xy}/$ 数=0 \rightarrow [0.2] $n=1\rightarrow$ [0.4]、 $n=2\rightarrow$ [0.6] $n=3\rightarrow$ [0.8]、 $n=4\rightarrow$ [1.0]		・必要事項を記載した施工計画が提案された。		
							□ ・施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案され	た。	
						6	・工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮 画が提案された。	設備計	
					チェック数 0		■ 四が定条された。 ・当該工事箇所における施工上の留意事項が、重要度別かつ施 毎に適切に整理する提案がなされた。	工段階	
			小計	100	①	20			
			-3 ні				・工事費に関するコスト把握能力を有していた。		
		コスト把握能力	コスト 把握能力	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」				
					$n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$	20	□ ・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解してい	TC.	
		(設計業務を対象				-	□ ・コスト縮減に係わる提案があった。		
		に評定する。)			チェック数 0		・ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコスト においたコスト縮減に係わる提案があった。	を念頭	
			小 計	100	①	20			

(3/5)

(3) 設計業務「詳細設計」 ① [担当監督員用]

得 点 率 標準 評価項目 評価の視点 配点 優 劣 得点 評価細目 0.8 0.6 1.0 0.4 0.2 ・契約書等に記載された期限以内 (ex. 契約締結後14日以内)に業務工 日 程表が提出され、速やかに業務の着手がなされた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・業務実施方針及び工程表には、設計図書に示された事項が適切に反 $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ ・未切へ~~ 映されていた。 実施手順 30 6 □ ・業務実施方針又は詳細な工程表には、業務実施上のポイントとなる 工程目標等が具体的に示されていた。 工程計画 ・作業 (調査、検討、設計) 項目間の実施手順等が適切に計画されて チェック数 0 ロいた ・契約図書に基づき、管理技術者等通知書及び業務計画書が提出され □ た。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務 □ が履行された。 10 2 実施体制 ・配置された担当技術者若しくは照査技術者は、業務内容に応じた技 □ 術者が配置され、適正に履行された。 業務計画書(業務組織計画)に示された実施体制は、本業務の履行 チェック数 0 □ に対して十分な体制であった。 □ ・打合せ記録簿が、打合せ後速やかに提出された。 工程管理能力 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映し、打合せ $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ 後の進め方や懸案事項等が的確に整理されていた。 打合せ内容の 理解、記録 20 □ ・受注者内 (再委託先等を含む) で意志疎通がなされ、指示や打ち合わせ事項が、その後の資料等に適切に反映されていた。 ・打合せ時に生じた不明点等の協議・確認が適切になされ、打合せ内 チェック数 0 □ 容が理解された(打合せ後に不明点等に対する問い合わせ等を発注者 に行うことはなかった)。 ・指示や注意を行う必要のあるような工程の遅れや、履行期限内に納 品されない等はなかった。 管 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・設計図書に基づく作業状況の報告、履行報告等を適切な時期に提出 理 $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ セ していた。 技 マ 40 工程管理 術 評 □ ・関連する他の業務や工事等に影響を及ぼすことなく完了できた。 カ 価 □ ・履行中のポイントとなる工程目標等も含め、全体を通して工程計画 どおり完了できた。 チェック数 0 100 20 小 計 1 ・チェックリスト等の品質管理の記録により、品質の管理がされたこ ・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行われ、 □ かつ、それらの成果への反映について確認できた。(ex. IS09001等の 認証取得状況と成果への反映の確認) 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 品質管理能力 ミス防止の $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor, \quad n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ 100 実施 0 チェック数 100 (I) 小 計 □ ・業務計画書等に、照査体制、照査計画等が記載されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・業務計画書等に記載の照査担当者による照査が実施されたことが確 $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ □ 認できた。 ミス防止の 品質管理能力 100 20 ・照査報告書等の品質管理の記録により、照査が実施されたことを確 実施 □ <u>****</u> 認できた。 ・品質管理のためのシステムが構築されている部署で業務が行われ、かつ、それらの成果への反映について確認できた。(ex. IS09001等の認証取得状況と成果への反映の確認) 詳細設計 0 チェック数 □ かつ、 計 100 1 20 小

業務名:

(3) 設計業務「詳細設計」 ① 〔担当監督員用〕 業務名:

得 点 率 評価項目 評価の視点 配点 優 標準 劣 得点 評 価 細 日 1.0 0.8 0.6 0.4 0. 2 □ ・業務遂行中に生じた、当初工程計画や業務内容の変更要請、あるい は監督員の指示等に迅速に対応した。 評価細目 f_{xy} ク数=0 \Rightarrow 「0.6」 $y=1\Rightarrow$ 「0.8」、 $y=2\Rightarrow$ 「1.0」 □ ・その結果生じた検討内容が特に優れていた。 当初計画の 40 24 変更 0 チェック数 □ ・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、関連事業者間の調整に係わる提案資料が作成された。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 関連事業者間 $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ 迅速性 管 30 18 の調整 理 技 弾力性 術 チェック数 0 調整能力 ・発注者からの指示、あるいは発注者との協議結果に基づき、地元住 □ 民等との合意形成 (円滑な業務履行の確保に資する地元等への配慮等 を含む)に係わる提案資料が作成された。 評価細目チェック数=0⇒「0,6」 $n = 1 \Rightarrow [0.8], \quad n = 2 \Rightarrow [1.0]$ 地元住民との □ ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 30 18 合意形成 チェック数 0 100 (1) 60 □ ・日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow 「0.2」 $y = 1 \Rightarrow$ 「0.4」、 $y = 2 \Rightarrow$ 「0.6」 $y = 3 \Rightarrow$ 「0.8」、 $y = 4 \Rightarrow$ 「1.0」 H 理解しやすい セ □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 説明 プレゼンテーション 30 6 評 □ ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 (資料) 侕 0 □ ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。 チェック数 □ ・打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 理解しやすい 質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答 $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ 期限が提示された。 説明 30 6 プレセンテーション コ □ ・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 (対応) ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理 口解できた。 チェック数 0 説明力 _ ケー 協調性 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 プレゼンテーション力 $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ ・説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 3 説明を補う 20 努力 力 □ ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 0 チェック数 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。 ・密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 〃=1⇒「0.8」、〃=2⇒「1.0」 ・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされ □ t. 円滑な業務 20 12 遂行への努力 0 チェック数 100 1 28 小 計

(4/5)

(3) 設計業務「詳細設計」	①〔担当監督員用〕	業務名:	(5/5)
----------------	-----------	------	-------

	評価項目		評価の視点	配点	得点率 優響 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
プロセス評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数 0	20	□ ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □ ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □ ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。
			小 計	100	1	20	
	成果品の品質		目的の達成度	40	評価細目 f_{xy} 2数=0 \Rightarrow [0.2] $n=1$ \Rightarrow [0.4]、 $n=2$ \Rightarrow [0.6] $n=3$ \Rightarrow [0.8]、 $n=4$ \Rightarrow [1.0]	8	 □ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ ・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務
					チェック数 0		□ に対し必要な業務成果が得られた。注)
結果評			的確な とりまとめ		評価細目 f_{xy} 为数=0 \Rightarrow 「0.2」 n=1⇒「0.4」、 $n=2$ ⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、 $n=4$ ⇒「1.0」	6	 ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。
価					チェック数 0		・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要 な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数 0	6	・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 ・成果品の品質に大きく影響しない(簡易に修正できる)計算等のミスも認められなかった。 ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 ・必要書類も整備されていた。
			小 計	100	①	20	

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(3) 瞉	投計業務「詳細	設計] ②	〔総括	監督員用〕		ļ	業務名: ((1/1)
	Thu	評価項目	評価の視点	配点	得点 優 標準 1.0 0.8 0.6	劣	得点	評 価 細 目	
	専門技術力	業務執行技術力	業務執行技術力	100	右記評価細目の記 総合的に判断し「0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0」 る。	て「0.2」 (基準点)	ç	□ ・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 □ ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 □ るものであった。 □ ふものであった。 □ かった。 □ かった。 □ かった。 □ かった。 □ おいて、特に評価できるものであった。 □ かった。 □ おいて、特に評価できるものであった。 □ ものであった。 □ ものであった。	できで
プロセ			. =1	100	得点率を入力			□ · その他 (理由:)	
ス 評	<u> </u> -		小 計	100		2	?	A VIII. A Set brill to bladle of TV Met a TV to dr.)	
価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	右記評価細目の記 総合的に判断して 0.4」、「0.6」 「0.8」、「1.0」 る。	て「0.2」 (基準点)	?	□・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対し 評価できるものであった。 □・地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 ・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として 制の拡充を図る等により、業務を完成させた。	
				100	得点率を入力	_		- その他(理由:)	
業務執行に係る過去		水計業務実施上の過失			評価細目チェック数 1 · 減点 チェック数	② つ毎に3点 ⑥ 0	0	□ ・業務執行上、指摘又は指導等を行ったが、改善されなかった。 □ ・関係者から苦情が寄せられる等、問題が認められた。又は、『 ・ 発生時の情報連絡等、対応が適切に行われなかった。 □ ・業務処理のミスにより大きな手戻りが生じた。 □ ・業務実施体制に問題があった。 □ ・その他(理由:	問題
適失に伴う減点	守秘性に係る過失 0						0	・業務に関する情報漏洩があり、受注者の責任によるものと発行が判断した。 ・その他(理由:	主者

(3	() 意	2. 公計業務「詳細	設計」 ③	〔検査』	員用〕		業務名: (1/1)	
	Ē	評価項目	評価の視点	配点	機 点 率 場 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
	専	業務執行技術力	検討項目 検討手法	50	評価細目 f_{xy} $/$ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ チェック数	10	□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足している。 ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合した。 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、相間の整合も図られていた。 □ 機索された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは 術を活用するなど、難易度の高いものであった。注)	ってい 食計項目
プロセス評	門技術力		十分な技術力	50	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」	10	・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分されていた。 ・特配仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能が技術力を有していた。 ・業務遂行段階において、発生した課題や発注者から新たけれた事項について十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に応できる能力を有していた。 ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に応できる能力を有していた。 ・	な十分な こ指示さ
価			小 計	100	3	20		
	コミュ ニケーショ	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	20	□ ・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が理解できた。 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相等に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ ・説明当事者の説明が十分なされた。または、説明が不十分合、他のメンバーにより補足説明がなされた。	が容易に 手の理解
	ン 力		小計	100	3	20	日、旧のググラン・「により「間足配力」がなどれりた。	
			bh The 4	40	評価細目 f_{xy} η 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものでなる。	うった 。	
					チェック数 0		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の 務に対し必要な業務成果が得られた。注)	り高い業
結果評価	成果品の品質	成果品の品質		30	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	6	 ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、 く取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意られ読みやすい。 ・設計図書にある東面 業務遂行段陛での投示東面を関連。 	Σ夫がみ
					チェック数 0		■ 要な点が理解しやすく取りまとめられている。	
			ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} η 数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ \Rightarrow $\lceil 0.4 \rfloor$, $n=2$ \Rightarrow $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ \Rightarrow $\lceil 0.8 \rfloor$, $n=4$ \Rightarrow $\lceil 1.0 \rfloor$	6	 ・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であった。 ・成果品の品質に大きく影響しない(簡易に修正できる) ま算等のミスも認められなかった。 ・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかった。 	長記・計
					チェック数 0		□ ・必要書類等も整備されていた。	
			小 計	100	3	20		

注) 考査基準「参考:採点上の補足」を参照のこと。